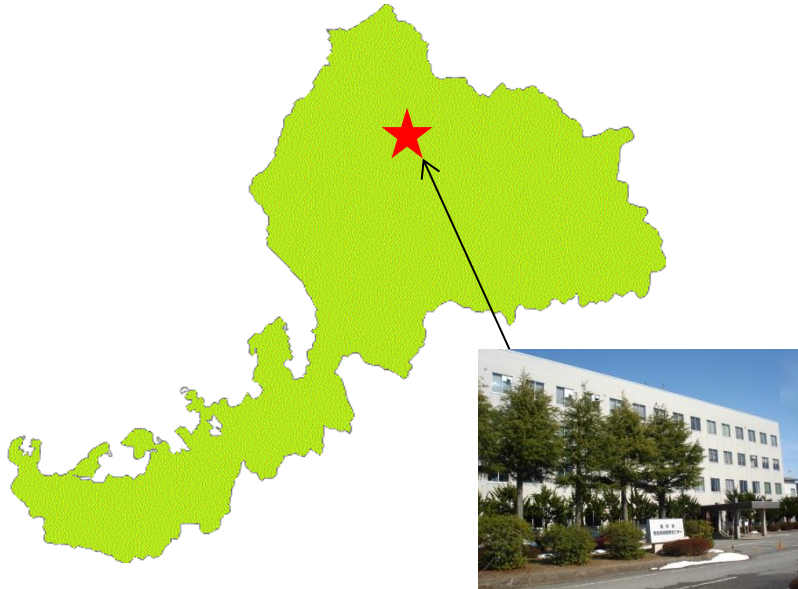


全国から見た福井県の酸性雨の特徴とその要因に関する研究

研究の目的

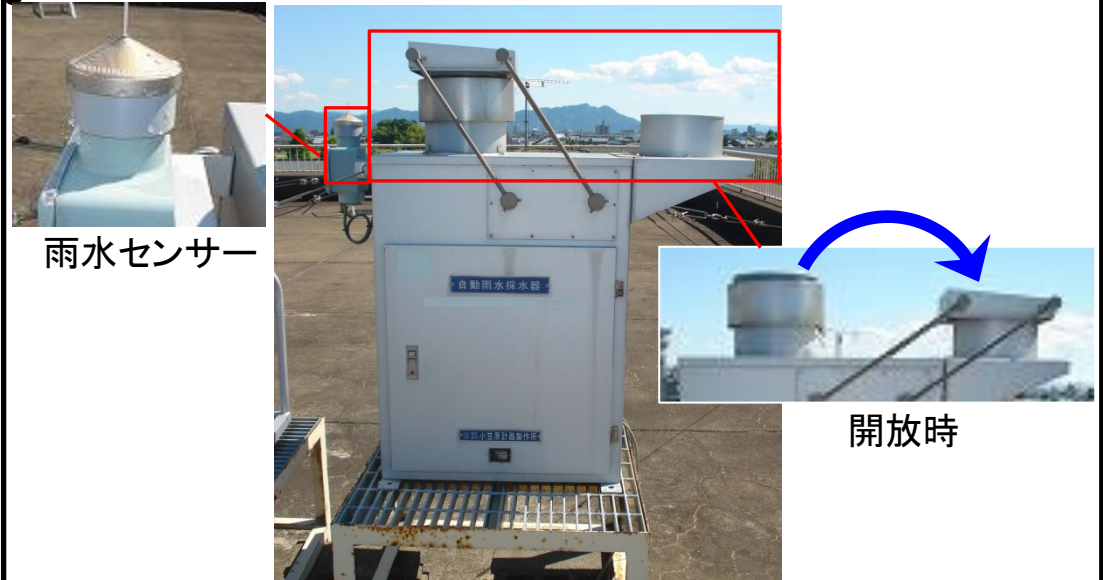
本研究では、雨水中のpH（ピーエイチ）やイオン成分を分析し、全国のデータと比較することで県内の酸性雨の特徴を明らかにすることを目的としています。

調査地点



調査地点：福井県衛生環境研究センター
(福井県福井市原目町39-4)

雨水捕集方法

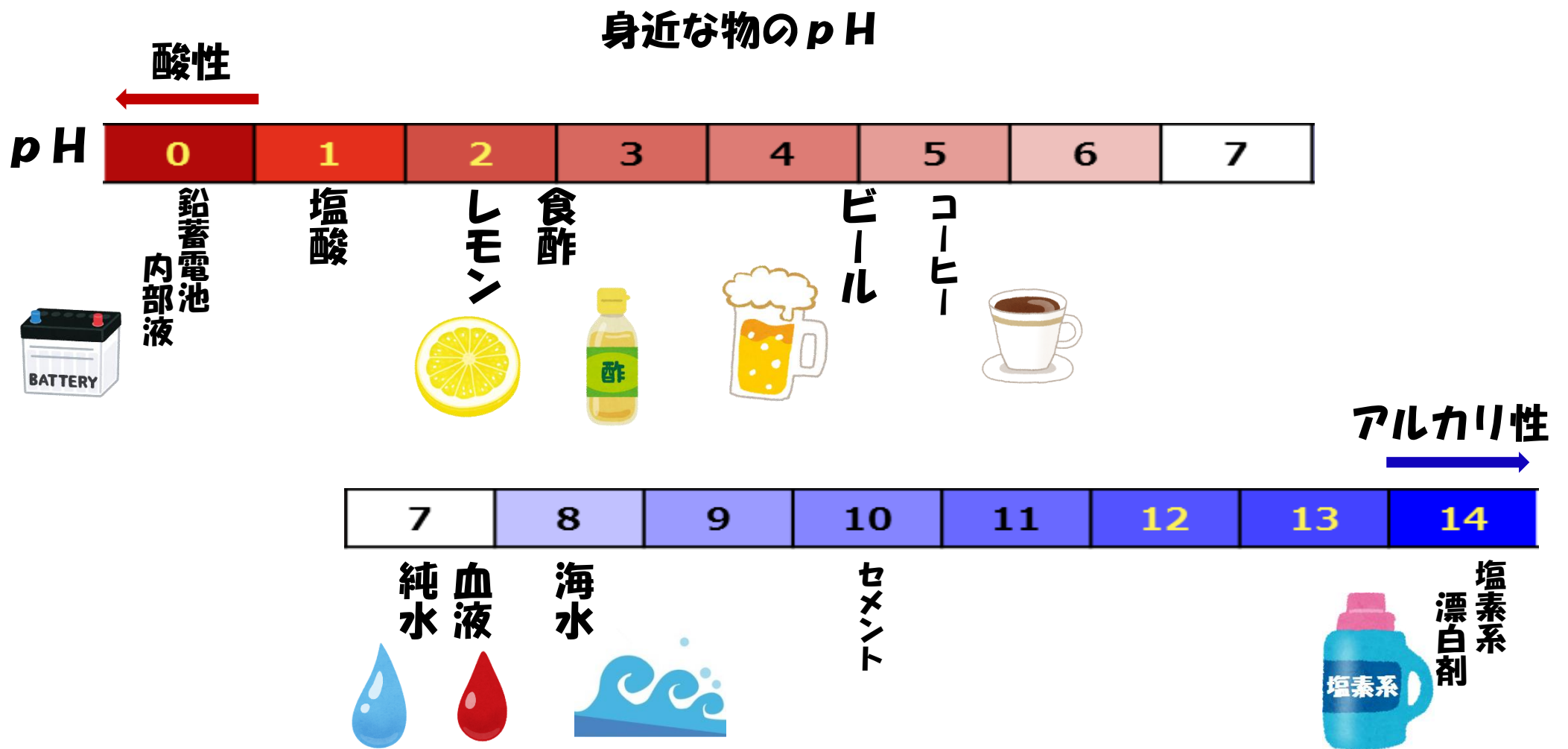


自動雨水採水器を用い、1週間で降った雨を捕集しています。
雨が降るとセンサーが反応して天蓋部が開放し、雨が捕集されます。

酸性度

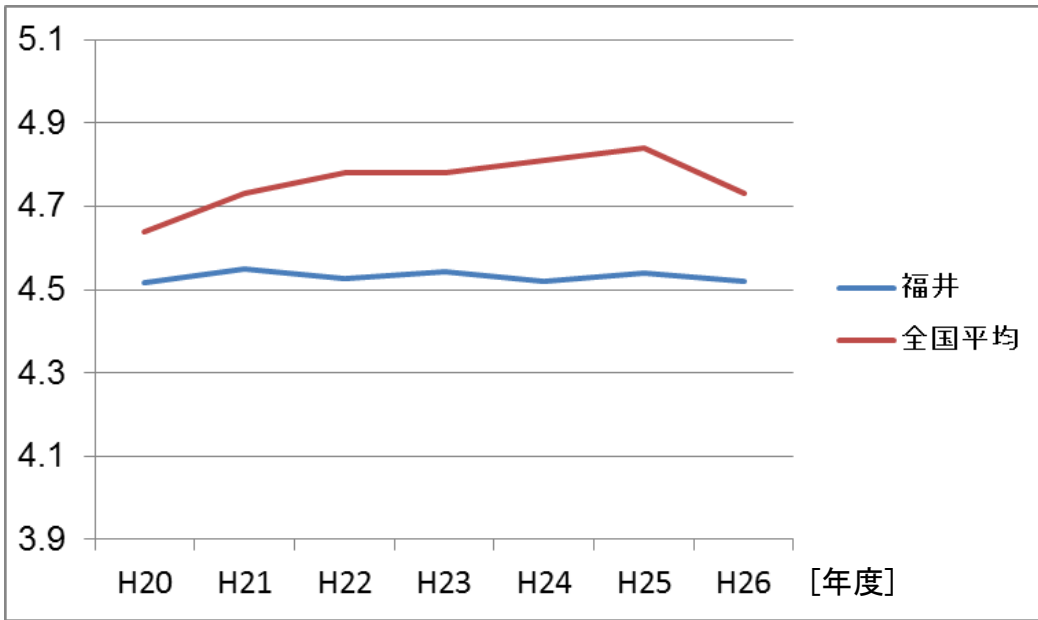
酸性度は、pH(ピーエイチ)とよばれる液体中の水素イオン(H^+)濃度を示す数値指標で表示されます。

0~14の範囲の数値で7が中性、0に近いほど酸性、14に近いほどアルカリ性が強くなります。

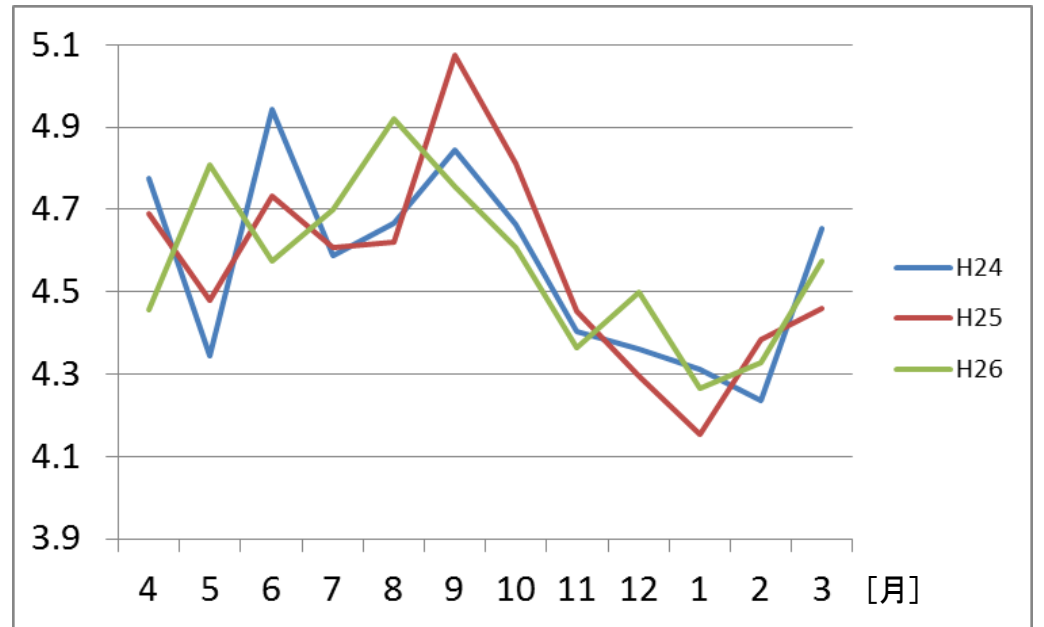


pH経年経月変化

pHの年間平均値の推移グラフ(H20~H26)



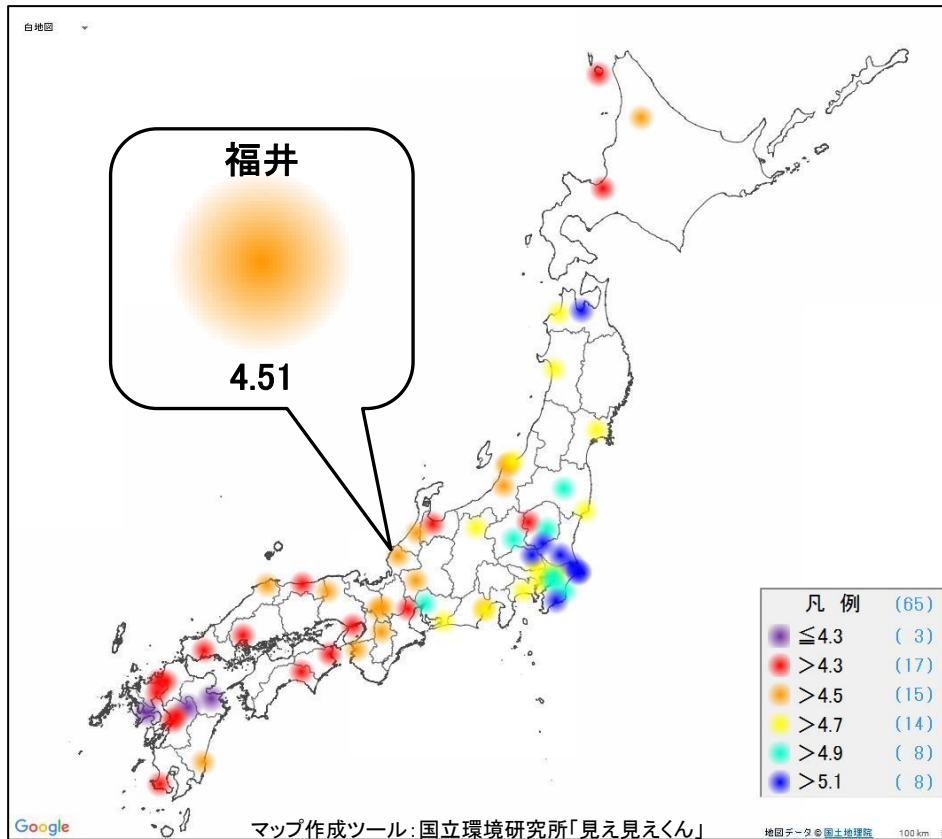
pHの月間平均値の推移グラフ(H24~H26)



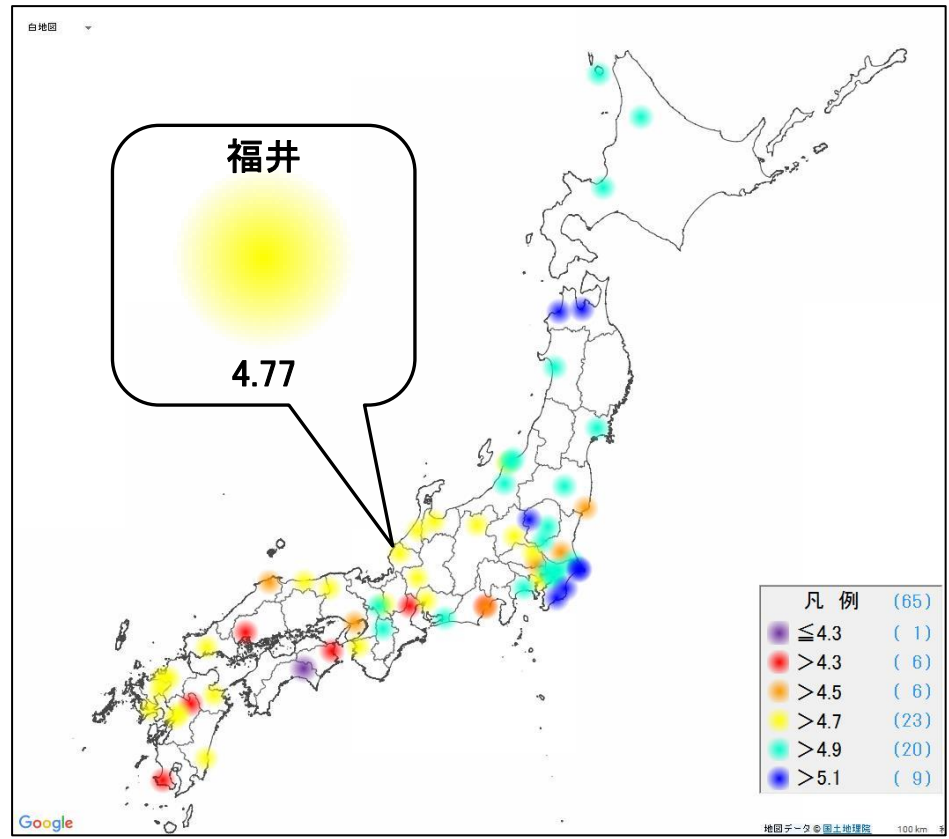
- 福井県は全国平均値と比べてpHが低い（酸性度が高い）
- 冬季にpHが低下（酸性度が上昇）する傾向がある
⇒ 冬季の風向き（偏西風）を考慮すると、大陸からの酸性物質の移流が考えられる

H26 季節別pH全国マップ

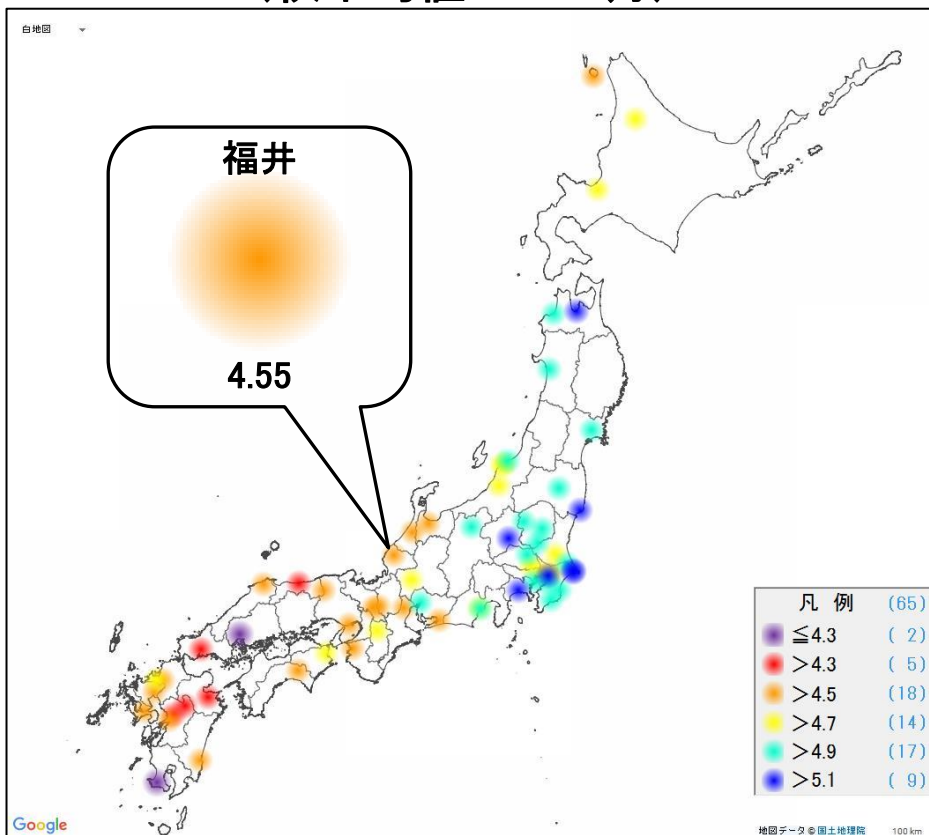
(春平均値 3~5月)



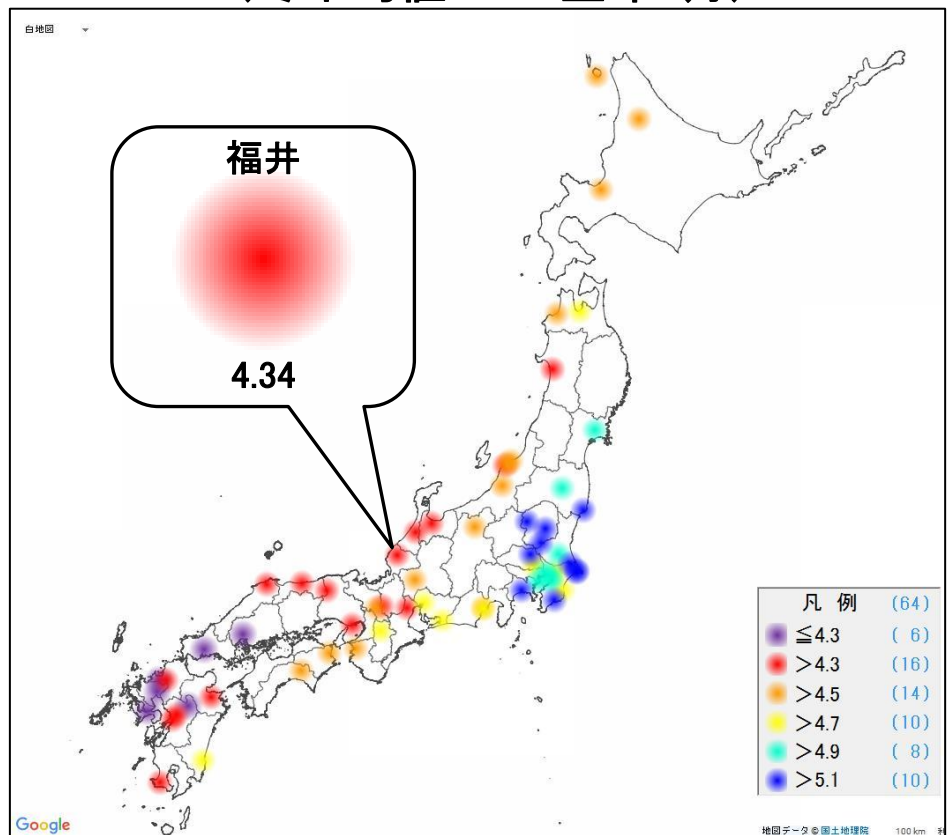
(夏平均値 6~8月)



(秋平均値 9~11月)



(冬平均値 12~翌年2月)



- どの季節においても西日本側の方がpHが低い（酸性度が高い）
- 化石燃料の燃焼排ガスなど酸性雨の発生源が多い関東圏都市部の方が西日本地域全般よりもpHが高い（酸性度が低い）
⇒ 大陸からの移流の影響は、国内都市部発生源を上回ると考えられる